

マニフェスト大賞優秀賞〈地方議会〉講評

塚本壽雄

早稲田大学大学院公共経営研究科教授

◆自由民主党川口市議会議員団（埼玉県川口市議会）

2006年10月に137項目に及ぶ会派マニフェスト（川口改革プログラム）を作成して以降、持続的にその進捗の検証と政策内容の見直しを積み重ね、2010年8月には2011年の次期改選期に向けた新たなマニフェストを作成することにより、会派としてマニフェストサイクルをワンサイクルまわすという全国でも特筆される実績をあげた。マニフェストの検証については、別途の外部評価を得る備えも行っており、すぎがない。また、新たなマニフェストは、会派としての市民アンケートを行うことにより得られた1500人以上からの回答を踏まえて絞り込んだ60項目のものであり、これに示された市民との直接対話を目指す姿勢と努力は、それだけを取り出しても大きな評価に値する。

政策本位の政治の実現を目指す「第5回マニフェスト大賞」（ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟、ローカル・マニフェスト推進首長連盟などマニフェスト大賞実行委員会主催、早稲田大学マニフェスト研究所・毎日新聞社共催）の受賞者が5日、決まった。応募総数は過去最多の1291団体1540件に上り、マニフェストによる政策提言の浸透とレベルアップを感じさせる。受賞者の取り組みと喜びの声を紹介する。

マニフェストは、政策の数値目標や実施期限、財源、工程表などを示した選挙公約。国政選挙で各政党が示すパーティー・マニフェストと、首長選や地方議員選で会派や個人が掲げるローカル・マニフェストがある。

マニフェスト大賞は審査委員会（委員長＝北川正恭・早稲田大学大学院教授）が生活者の視点から選考した。「大賞グランプリ」はマニフェスト実現にあたり最も高い評価を得た首長と会派に贈る。「最優秀成果賞」は公約の有無を問わず、優れた政策を実現した議会・会派に、「最優秀政策提言賞」は優れた政策を提案した議員個人に与える。

ホームページや会報などを通じ情報発信に積極的に取り組んだ議会・会派・議員には「最優秀コミュニケーション賞」、地域主権や二元代表制を踏まえ、議会機能の強化や情報公開などに取り組んだ議会には「最優秀議会改革賞」を授与する。「マニフェスト推進最優秀賞」は市民レベルでマニフェスト作成や公開討論会などに取り組んだ団体・個人に贈る。各賞の受賞は逃したものの、高い評価を得た団体・個人には「審査委員会特別賞」が与えられる。

■協賛企業

森ビル、NTTデータ、マイクロソフト、ぐるなび、グリー、トムラ・ジャパン、NPOドットジェイビー、ピーエムラボ、ホテルロイヤルヒル福知山、京都SEINEN団、ソフトバンクテレコム

